

第1回 旧新豎町小学校跡地整備基本構想検討懇話会 議事概要

【開催概要】

日時：令和7年5月29日（木） 16:30～18:00

場所：金沢市役所第二本庁舎 2階 2203 会議室

【議事要旨】

（1）座長選任

事務局から、金沢大学准教授の丸谷委員の座長就任を提案し、全会一致で承認

（2）意見交換発言要旨

<橘委員>

例えば、県内の大学か県外の大学か、教授のような方が常駐しているようなものかなど、具体的なイメージがあれば教えてほしい。

<事務局>

一義的には県内の大学を想定している。プラスアルファとして、関係人口創出という観点で、県外の学生も受け入れることも考えられるが、それも含めて委員の皆様にご意見いただきたい。

<仁志出委員>

これまで地域の方々と話し合ってこられた内容について、資料にある主な意見以外のものも、次回でいいので示してほしい。

<甚田委員>

地元の思いとしては、未来志向で考えたい。

大学の郊外移転によりまちなかに学生が少なくなったことから、大学のひとつの学部がこの場所にあればいいと思うが、ハードルは高いと思っており、サテライトのような機能のものができればと思っている。

子どもの遊び場として、犀川は川のため危険もある中で、遊具があり、子どもと保護者が一緒に遊んでもらえるようなスペースがあればよい。

公民館に関して、平成元年に建築され30年以上が経っていることもあり、新たな施設に入りたいという思いもある。

もうひとつは拠点避難所の機能をいかにして確保するかということも大事である。

跡地の利活用に関しては、学術、交流、防災の3つが大きなキーワードになると考え

ている。

<山本委員>

まちなかに現在サテライトを持つ大学も含め、各高等教育機関がどのように考えているかヒアリングする必要もあるのではないかな。

近隣には高校もあるので、高校生が遊びに来たり、例えば金沢 I T 部活のような活動の場としたりなど、中高生を含めて検討してもよいと思う。

<片桐委員>

郊外のキャンパスに通う学生にまちなかまで来てもらうのは結構難しい。学生をまちなかにという視点では、住んでもらうというのも一つのアイデアである。

また、中高生も含めるという点で、身近なお兄ちゃん的な存在として大学生と交流を深めることで、互いに地域への愛着が生まれ、定住につながるとも考える。

<丸谷座長>

授業でフィールドワークをするときにはまちなかに拠点があるとやりやすい。目的がないと学生は集まらないので、定住も含めてそうした視点で検討してもよい。

<仁志出委員>

例えば小学生や中高生の居場所として、その中に大学生が入るなど、大人が担保しながらも運営側に学生が入るような仕組みもいいのではないかな。地域の思いとしても、イベントの時だけ学生が来ればいいというわけではないと思うので、そこが居場所となるような仕組みづくりが必要である。

<橋委員>

学生が卒業後も定着してもらうという点で、事業者との交流があってもよい。

また、新たな施設は学生が設計に関わるというのも一案で、学生自身が手掛けた建物であれば、まちなかに赴くきっかけにもなる。

<稲垣委員>

まちなかに出るのは、遊びに行くためよりアルバイトなどで行く機会の方が多いように思う。新たな施設でも学生のアルバイトや子どもとの交流、あるいは起業などの観点があれば学生は集まると思う。

<丸谷座長>

いろんな意見が出ているが、未来のまち創造館や学生のまち市民交流館との役割の

違いは明確にしておく必要がある。

<中田アドバイザー>

現在まちなかにサテライトを持つ大学も含め、各大学はこの施設に興味を示すと考えるが、やはり学生にとって来る理由が必要である。駐車場があると利便性は高まると思う。近隣には専門学校もあるため、そうした学校との連携も視野に入れて検討できるのではないかな。

建物に関しては、ドローンで上空から見るとおもしろいものになるなど工夫があれば魅力は高まるのではないかな。

<鶴見委員>

学生だけでなく、お年寄りや子どもにとっても居場所になり、多世代がつながりを持てるような場所になってほしい。子どもや保護者が、学校のある場所、他地域に流れてしまうことを懸念している。地域コミュニティの場所が新施設と公民館とで分かれるのは地域にとってあまりよくないと思われるので、是非公民館も新たな施設の中に入れてほしい。

また、現在盆踊りや社会体育大会などをこの場所で行っており、そうしたイベントに使える交流スペースは屋内外に必要で、さらに駐車場があるとありがたい。

<甚田委員>

来る目的をつくるという点では、商店街と連携して、学生が空き店舗でチャレンジショップを開くなどいいのではないかな。また、高齢化率が高いので、リハビリなどを学ぶ学生との連携も考えられるのではないかな。

まちが学生を育て、学生とともにまちも育つようになればよいと考える。

<鶴見委員>

建物に関する意見も出ているが、この場所は本多町歴史文化ゾーンと寺町台をつなぐ位置にあり、魅力的な建物ができれば観光客の回遊性向上につながるし、観光客と地域との交流も生まれるのではないかな。

<片桐委員>

施設の持続性を考えた時、大学が常にこの場所で講義を提供するような場とすることは難しい。核となるところをどのように持続可能な仕組みにしていくかということも考えなければいけない。これから時代の変化も早くなる中で、時代に合わせて中身も変化できるようなプログラムを検討することも必要ではないかな。

<仁志出委員>

子どもの遊び場に関して、最近のトレンドとしては、一つは少し足を伸ばして大きな公園、SNS 映えする公園に行く人がある。もう一つは地域の人がある公園に行くという2つ。特に後者では、子どもがもっと自由に遊べる場を求める声がある。また、お兄さんお姉さんのような人が子どもを見てくれると嬉しいという声もある。自由な遊び場は地域の理解や協力が大切になってくるので、地域の方たちと一緒につくっていけるとよい。

<甚田委員>

防災面について、旧校舎は未耐震であり、地震があると倒壊のおそれがあり使えないが、体育館だけでは避難所として収容力が不足してしまう。また、鱗町交差点からの道は狭く動線が取りにくく、商店街も道が狭いため同様である。体育館を解体して動線を確保し、新たな施設に避難所機能を持たせるということも検討してほしい。歌劇座が指定避難所になったことも踏まえて防災機能を検討していく必要がある。

<丸谷座長>

体育館の解体については何か方針は決まっているか。

<事務局>

解体するかどうかは決めていない。今意見があったように歩道の改善などの必要性を踏まえて判断したい。

<仁志出委員>

子育ての視点から、金沢はどこも住みやすいが、「あそこで子育てがしたい」と思われることがまちの活性化につながると思う。また、小さな子どもだけでなく、中高生が学校や家にいづらなくなった時の居場所となれる場所になるとよい。

<山本委員>

地元の方にとって、小学校がなくなった喪失感がある中、体育館など地域スポーツ施設がなくなるとまちの賑わいが失われてしまうのではと懸念するが、地元の思いはどうか。

<鶴見委員>

現在学校開放として体育館を使っているチームはある。また、公民館事業としても体育館のような人が集まれる空間は、屋外だけでなく屋内でも必要である。

<橘委員>

商店街との関連性として、例えば施設の1階に小規模店舗が入れば、商店街と相乗効果でさらなる活気生まれるのではないかな。

<丸谷座長>

多様な人々が学生を通してどのようにつながりを持つていくのかを考えていくと、必要な機能や想定される活動が見えてくるように思う。

以上